

# 新作誕生!!!

# 202106

新作が出来ました。

『いまは むかし

ー父・ジャワ・幻のフィルムー』

いつも、新作が出来た！と言うと「いつの間に創ってたの？」と言われる…。今回の映画も、企画したのはもう三十年近く前で、取材もその頃からだから、30年がかりの作品になる。

50年程前に他界した記録映画の構成・編集者だった父、伊勢長之助が戦時中ジャワで創っていた国策映画を巡る物語…

自主製作ながら、インドネシア、オランダ、と海外取材をくり返し、ようやく完成した映画だ。

昨年からの「コロナ禍」のただ中での編集作業、20数年撮りためた映像と、父たちが創った“幻のフィルム”と呼ばれることもある戦時中のフィルムに向き合い、まとめた。私にしたら、ちょっと社会派の作品かな？

戦争の時代のことといっても、いつものように身近な存在にカメラを向けてるヒューマンドキュメンタリーだ。親父のことだからね。

国策映画を創り続け、戦争に加担した親父を、いとおしむ気持ちを込めながら、あの戦争の時代の“真実”を描くドキュメンタリーは可能だろうか…という思いで取り組んでみた。

本当のことを言うと、親父のことはほとんど知らない。親父とオフクロが夫婦別れしてるから一緒に暮らしたことがあまり無いからね。

けれども、ほとんど知らないから親父のことを知りたいと思いつけてきたし、ほとんど知らないから戦争のことも、もっと知りたいと思ってきた。

正しく戦争の時代のことを描けるわけではないかもしれないけど、親父がかかわった国策映画という視点から戦争のことを考え、映像に遺してみようと思った。個人的な私的な視点から、戦争の時代の真実に近づいてみたい…。もしかしたら、親父への想いのあまりマチガッテしまうかもしれない…それもよし、と覚悟を決めてね。

で、やってみたら、いつも以上に迷いに迷った。そして、ようやく出来上がった。実は自分でもよくワカラナイところが今もあるんだけど、ワカリ過ぎてない方がいいような気がする。

観た人がしっかり受け止めて、考えてもらえれば、それが一番。色々文句をつけたくなる場所がある映画かもしれないけど、それも面白いでしょ？

「いまは むかし」そして、

「むかしは いま」…

「いま」という時代を、考えるキッカケになる映画として、受け止めてもらえれば、創った意味もあるかもしれない。

「コロナ禍」の悪戦苦闘の中で生まれ出た作品だから、愛着がある。転んでも、ただでは起きない。

「負けてたまるか…」

伊勢 真一

カントクのつぶやき

二〇二一年六月